



看護学科の学生がいのちの大切さを教える 「いのちの授業」並木中央小学校で実施しました

横浜市立大学医学部看護学科の学生有志による「いのちの授業グループ」は、平成28年9月8日(木)に「いのちの授業」を並木中央小学校にて行いました。本取組はボランティア支援室が所管する「学生が取り組む地域貢献活動支援事業」の一環で行っており、殺人事件やいじめ、虐待などが深刻化している現代社会で、子どもたちにいのちの大切さを理解してもらうことを目的としています。

今年で9年目となる本活動は、訪問先の学校のニーズに合わせ、プログラムや教材をアレンジしています。今回は特別プログラムとして、ご懐妊中の先生の胎児心音を聴く体験や、子どもをもつ男性教職員へのインタビューを行いました。本活動は、児童だけでなく教員や保護者からの要望で継続しているものです。

■「いのちの授業」実施内容

【日時】平成28年9月8日(木)

1クラス目 9:00~10:15 2クラス目 10:30~12:00

【場所】横浜市立並木中央小学校 (横浜市金沢区並木1-25-1)

【対象】小学校5年生 2クラス63名

【実施プログラム】※各プログラムの詳細、参加した児童の声は裏面参照

・第Ⅰ部：講義(45分) ※1クラス目の講義は30分

- | | | |
|--|---|-------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命誕生のプロセスについて(映像資料、クイズなど) 2. ご懐妊中の先生の胎児心音を聴く体験 3. 子どもをもつ男性の先生へのインタビュー | } | 今年度の特別プログラム |
|--|---|-------------|

・第Ⅱ部：体験(45分)

1. 赤ちゃん模型を用いたマッサージの指導・実施
2. 赤ちゃん模型を用いたおむつ交換・抱っこの指導・実施
3. 妊婦ジャケットを用いた妊婦体験の実施
4. 聴診器を用いた赤ちゃん模型と自分の心音の聴取・比較

■今後の展開

今後はこの講義を更に多くの子どもたちに伝えるため、地域の学童保育所など子どもが多く集まる場で実施することを検討しています。

※本活動を行っている学生や教員への取材を受け付けます。また、当日の写真等は提供いたしますので、必要な場合にはお問合せください。

第Ⅰ部 講義

【プログラム内容】

1. 生命誕生のプロセスについて（映像資料、クイズなど）
2. ご懐妊中の先生の胎児心音を聴く体験
3. 子どもをもつ男性の先生へのインタビュー



【参加した児童の声】

- ・「赤ちゃんの心音を聴いて、赤ちゃんの元気な様子を知ることができた」
- ・「映像やクイズ形式の講義は話がわかりやすく面白い、もっと学びたい」
- ・「子どもをもつ楽しさを聞いて、自分も将来、先生のような父親になりたいと思った」
- ・「この講義でいのちの大切さを知った。今後兄弟に意地悪をするのをやめ、優しくしたい」

第Ⅱ部 体験

【プログラム内容】

1. 赤ちゃん模型を用いたマッサージの指導・実施
2. 赤ちゃん模型を用いたおむつ交換・抱っこの指導・実施
3. 妊婦ジャケットを用いた妊婦体験の実施
4. 聴診器を用いた赤ちゃん模型と自分の心音の聴取・比較



【参加した児童の声】

- ・「妊婦ジャケットを着てみて重いと感じた。
こんなに妊婦さんが大変とは知らなかった」
- ・「赤ちゃん模型の心音と、自分の心音が異なることを
体験プログラムを通じて知ることができた」



【いのちの授業を行った看護学科の学生の声】

横浜市立大学医学部看護学科 3年和田頼子さん

今回は、本活動の目的である他人のいのちを思いやることを実感してもらうため、体験プログラム後に1つの大きな円になるように座ってもらいました。友達の顔が見えるように向かい合うことで、自分の存在と同じように周囲の人も大切な存在であることを実感してもらうことをねらいとしています。

本活動を通じて、児童の反応を見ながら授業を行うことや自分たちから児童にアクションをする必要性を実感しました。今後は、地域の学童保育所など子どもが多く集まる場での実施を検討しており、更に活動する機会を増やしたいと思っています。

